

日本ユニシスグループ

2017年度 サステナビリティ報告

コミュニティへの 参画 及び コミュニティの発展

当社グループは、社会における良き企業市民としてコミュニティの発展に貢献する活動を行っています。

- 社会貢献活動方針・制度
- 国際協力
- 障がい者支援
- 未来を担う子どもの支援
- 地域貢献
- 被災地支援
- 社員による自発的な社会貢献活動

Foresight in sight

社会貢献活動方針・制度

社会貢献活動方針

1. ICTサービスを通じて人と環境にやさしい社会づくりに貢献します
2. 社会の期待と要請に対する感性を磨く人材育成の一環として、社員によるボランティア活動などの自発的な社会参加を支援します
3. ステークホルダーの声に真摯に耳を傾け、コミュニティに参画し、コミュニティの発展に寄与します

活動の評価

社会の視点と日本ユニシスグループの視点から活動の評価するとともに、地域コミュニティや寄付先、活動パートナーと積極的に意見交換を行い、今後の取り組みに活かしていきます。

なお、2017年度 社会貢献活動支出額は、1,300万円（連結グループ）となっております。

社会貢献活動休暇・休職制度

当社グループでは、社員の自発的な社会貢献活動を支援するための休暇・休職制度を設けています。

社会貢献活動休暇	連続または分割して月に5日、年に12日以内
社会貢献活動休職	原則1か月以上2年以内

国際協力

TABLE FOR TWOへの参加を通じた開発途上国の飢餓解消への貢献

開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消を目指した、社会貢献プログラム「TABLE FOR TWO」に、気軽に参加できる社会貢献活動の機会として参加しています。

本社ビルの社員食堂2カ所で対象メニューを提供し、利用者が対象メニューを食べるごとに開発途上国の子どもたちの学校給食1食分の20円が寄付される仕組みです。

日本ユニシス実業団バドミントン選手や日本ユニシスグループのアンバサダーを務める 倉木麻衣さんなどが監修した特別メニューの提供も毎月行い、積極的な利用を通じて社会貢献活動への理解と浸透を図っています。



特別メニュー



特別メニューを食べる社員たち

「ステナイ生活キャンペーン」を通じた児童労働解消への貢献

「ステナイ生活キャンペーン」は、不用品を捨てずに国際協力へ活かすというコンセプトのもと、書き損じはがきや古本・中古CD/DVDなどを集め、収益金を「特定非営利活動法人 シャプラニール＝市民による海外協力の会」(以下「シャプラニール」)を通じ、国際貢献に役立つ活動で、全国の当社グループ社員の協力のもと毎年実施しています。

2017年度は約1,000点の物品が集まりました。寄付金は、シャプラニールの「子どもの夢基金」を通じ、バングラデシュやネパールにおける児童労働を予防し減らすための資金として活用されます。



全国から送られてきた物品の一部

障がい者支援

ヴァイオリニスト川島成道氏とのパートナーシップによる活動

日本ユニシスグループでは、世界的ヴァイオリニストであり2017年に文部科学省の「スペシャルサポート大使」に就任された川島成道氏の活動に共感し、1998年のデビュー時からオフィシャルスポンサーとして支援しています。

2018年1月の「日本ユニシス・プレゼンツ 川島成道ニューイヤーコンサート2018」では、目の不自由な方および同行者の方150名（一般向けコンサートとしては国内最大規模）を招待しました。社員ボランティアは、事前に目の不自由な方の誘導講習などを受講してコンサートにのぞみ、毎回数十名の社員が会場案内やトイレ介助の他、希望者にはご自宅からの送迎も行っています。



コンサートの様子

コンサート会場では点字や大きな文字、音声できけるパンフレットも配布し、ご招待者の方から感謝の言葉をいただきました。

視覚障害者就労支援フォーラムへの協力

北海道札幌市で、特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN) の主催により、視覚障害者就労促進フォーラム、視覚障害者就労支援セミナー、指導者勉強会が実施され、企業・関係機関・視覚障がい当事者等が参加しました。

実施にあたっては、日本ユニシスグループ社会貢献クラブ「ユニハート」からの寄付と当社からのマッチングギフトを活用いただきました。

また、視覚障害者就労促進フォーラムにおいて、「視覚障害者とともに働く、視覚障害者として働く」と題して、当社社員が、自身の職業訓練・復職・盲導犬の受け入れ・仕事の進め方等に関して発表を行いました。



視覚障害者就労促進フォーラム

新入社員向け視覚障がい体験講座

当社グループの新入社員を対象に、社会課題に気づき、自分ごととしてそれを解決するモチベーションをもつための体験講座を実施しています。

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク(SPAN)による体験講座では、触覚で情報を得る体験や、アイマスクをした相手に言葉のみで状況を説明をする体験を行い、特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会による体験講座では、スクリーンに表示された質問をアイマスクをした相手に音声を使わず、手書き文字などで伝える体験を行いました。

この体験はダイバーシティ&インクルージョンの理解を深めるきっかけとなっています。



音声を使わず、手書き文字で伝える体験

盲導犬イベント

目の不自由な方の社会参加促進に寄与するため、2004年より、公益財団法人 日本盲導犬協会への募金活動を続けています。

毎年、全国で盲導犬チャリティグッズ販売会や視覚障がい・盲導犬啓発教室を開催し、街で目の不自由な方や盲導犬に出会ったときにできることなどを学ぶ機会となっています。



盲導犬PR犬との体験歩行の様子

目の不自由な方の誘導講習

毎年「川島成通ニューイヤーコンサート」で誘導サポートを行う社員及び一般の社員向けに「目の不自由な方の誘導講習」を実施しています。

講習では、東京視覚障害者生活支援センターにご協力いただき、視覚障がいの基礎知識や、実際に目の不自由な方の役、ガイド役に分かれて、声のかけ方、階段、トイレの誘導方法などを学んでいます。

2017年4月には、九州支社でも「目の不自由な方の誘導講習」を実施しました。



階段での誘導方法の実習

目の不自由な方を支援するICTワークショップ

特定非営利活動法人 視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN) にご協力いただき、「目の不自由な方を支援するワークショップ」を実施、音声読み上げソフトを使ったパソコンの入出力や、音声によるタブレット画面の操作などを学びました。



音声読み上げソフトを使ったパソコン入力体験

未来を担う子どもへの支援

e-ネットキャラバンへの社員派遣

「e-ネットキャラバン」は、子どもたちが携帯電話やスマートフォン、インターネットを安全に利用できるように、子ども・保護者・教職員を対象とした啓発活動です。

一般財団法人マルチメディア振興センターが運営、総務省・文部科学省支援のもと、情報通信分野などの多くの企業・団体が協力して、全国で「e-ネット安心講座」を実施しています。

日本ユニシスグループは、「e-ネットキャラバン」の活動趣旨に賛同、2006年4月の設立当初から参加し、講師認定講習会を受講したグループ社員を講師として継続して派遣しています。

2017年度は全国21箇所で、講師認定された社員が講座を行い、その中で特に講座登壇件数の多い2名の講師が、事務局より「感謝状」等を贈呈されました。



「e-ネット安心講座」の様子



感謝状を贈呈された社員

ふれあいまつりへの社員参加

一般社団法人 江東ウィズが主催する「ふれあいまつり」に当社グループ社員が継続して参加しています。

「ふれあいまつり」は、江東ウィズが、江東区地域の方々と障がいのある方が交流を深め、障がいのある方々の活動に対する理解を深めるために、毎年開催しているイベントです。

社員は、模擬店などの販売ボランティアとして、江東ウィズの子どもたちと共にバナナジュースやフルーツポンチを作って販売しています。



「ふれあいまつり」の模擬店

ファミリーハウスでのパソコンボランティア

難病の子どもとその家族のための滞在施設を提供している認定非営利特定法人ファミリーハウスで、各滞在施設に置かれたパソコンの定期チェックやその他の活動に、2010年から継続して当社グループ社員がICTを活かしたパソコンボランティアとしてかかわっています。



パソコンの定期チェックを行う社員ボランティア

地域貢献

川島成道チャリティコンサート

東京都江東区の豊洲シビックセンターホールで川島成道さんのチャリティコンサートを「地域住民の方々と共に感じ、共に考えるイベント」として開催しています。

このコンサートでは、来場者に演奏を楽しんで頂くとともに、全員がコンサート中にアイマスクをして演奏を鑑賞する「視覚にたよらない美的体験」や「視覚障がいや盲導犬について知る講座」、「盲導犬PR犬との体験歩行」、「音声ソフトを使ってパンフレットの内容をスマートフォンや携帯電話の音声で聞く体験」などを実施しています。来場者が楽しみながら、多様性のある社会を理解し、身近で困っている方に出会った時に「声かけ・サポート」ができるようになることをめざしています。



コンサートには盲導犬訓練犬も参加



体験歩行の様子

地域ネットワークへの参加

江東区に事業所がある企業・大学などが集まる、「江東区社会貢献ネットワーク」(こらぼら)に参加し、「江東区における社会貢献活動の活性化」をテーマに活動を行っています。定例会での情報交換を行う他、地域の合同清掃、江東区民まつりなどの区内イベントに合同で参加しています。



「こらぼら」定例会

地域のクリーン活動

社員有志の「豊洲キレイにし隊！」が、昼休みを利用して定期的に清掃活動を行っています。

2004年に社員の提案によりスタート、2007年からは豊洲地区の企業や団体による合同清掃の一環として開催、地域全体で多くの方が参加しています。

参加することで、Foresight in sight POINT (F-POINT)※ がたまる社内制度も新しく始まりました。

支社支店でも、中部支社での堀川「宮の渡し公園」清掃など、さまざまなクリーンアップ活動を行っています。



本社周辺のクリーンアップ活動

※F-POINT：日本ユニシスグループのポイント制度。社員が感謝したい相手に対して贈ったり、チャレンジ・変革・努力に対して付与されます。

豊洲フェスタへの協力

豊洲フェスタは、公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 江東区豊洲文化センターが、豊洲地域の企業や団体と地域の方々との交流のために毎年秋に開催しているイベントです。当社グループは地域貢献として、2005年度から毎年、子どもたち向けにICTを身近に感じてもらえる機会を提供しています。

2017年10月江東区豊洲文化センターで行われた「第24回豊洲フェスタ」では、「未来を創る子どもをつくろう」という主旨で、ロボットの「Sota（ソータ）」とARアプリのMyboo（旧名称：タメスコ）を組み合わせた『ロボットと遊ぼう』というアトラクションを提供しました。2日間でのべ約500名の方がブースに立ち寄り、お子様を中心に約250名の方にアトラクションを体験いただきました。



豊洲フェスタの様子

地域販売会の実施

本社ビルでは、江東区内の障がい者施設で作られた製品の販売会を定期的実施しています。販売会では、社員ボランティアが施設利用者の方々と共に販売や呼びかけを行い、交流の場ともなっています。

また、北海道支店では「札幌市手をつなぐ育成会」が札幌市からの委託販売事業として店舗運営している「いこ〜る」による販売会を実施しています。



販売会風景

日本ユニシス実業団バドミントン部

日本ユニシス実業団バドミントン部は、女子ダブルス高橋礼華・松友美佐紀をはじめとする日本代表が15名(※)所属する男女チームです。2000年シドニーオリンピックから5大会連続で日本代表選手を輩出し、国内では2017年の実業団選手権大会において2度目の男女同時優勝を果たしました。

また、本社の所在する東京都江東区内の小学・中学・高校生をはじめとする多くの子どもたちを対象にバドミントン講習会を開催し、バドミントンの楽しさを積極的に伝えるとともに、スポーツを通じた青少年の健全な育成に寄与していきたいと考えています。

2014年8月には、東日本大震災復興支援の一環として、岩手県上閉伊郡大槌町で子どもたち向けのバドミントン講習会を実施しました。

※2018年7月11日現在

日本ユニシス実業団バドミントン部

<https://www.unisys.co.jp/com/sponsors/badminton/>



被災地支援

被災地支援

東日本大震災復興支援活動

- 2012年4月から2015年9月まで、2名の技術者を岩手県上閉伊郡の大槌町役場に派遣し、ICTによる町の復興支援業務のお手伝いを致しました。
- 日本ユニシス実業団バドミントン部は、2014年8月に大槌町で次世代育成支援の一環として、子どもたち向けのバドミントン講習会を実施しました。
- 日本ユニシスグループ社会貢献クラブ「ユニハート」は、2011年度から継続して東日本大震災復興支援活動を行なっている団体に寄付を実施するほか、社内でチャリティ販売会等を実施しています。

熊本地震に関する支援活動（益城町）

益城町の若者が主体となって行動するワークショップ「益城町未来トーク」と日本ユニシスがコラボしたイベント「益城町でこんなこと出来たらイイなを考える」を開催しました。若者応援・社会貢献活動のシンボルとして当社と共に活動している倉木麻衣さんも駆けつけ、復興にはずみをつける機会となりました。



熊本地震募金よびかけ



益城町でのイベントの様子

社員による自発的な社会貢献活動

日本ユニシスグループ社会貢献クラブ「ユニハート」

ユニハートは、社員の自発的な社会貢献活動の推進を奨励し、社会に貢献することを目的に2006年に設立しました。会員は943名（2018年3月末日現在）。会員自らが企画・運営を行うチャリティイベントや、NPO等への寄付など幅広く活動しています。当社としては、ユニハートの寄付に応じたマッチングギフトにより、会社としての支援を実施していません。

ユニハート寄付先団体（2017年度）

子どもたちのために活動している団体

1. マルチメディア振興センター(e-ネットキャラバン)
2. ファミリーハウス
3. 江東ウィズ
4. わんぱくクラブ育成会
5. 札幌市手をつなぐ育成会
6. ブリッジ・フォー・スマイル
7. シャプラニール=市民による海外協力の会

障がいを持つ方たちのために活動している団体

1. 視覚障害者パソコンアシストネットワーク (SPAN)
2. 日本盲導犬協会
3. シネマ・アクセス・パートナーズ
4. 福岡中失難聴者支援福祉協会
5. 東京盲ろう者友の会
6. Chupki (チュプキ)

寄付先との交流

ユニハートでは、定期的に寄付先との交流イベントを実施しています。2017年10月に開催した交流イベントでは、2016年度の寄付先に参加いただき、寄付先団体紹介、グッズ販売、体験講座などを行い、寄付先団体と社員が直接交流する機会となりました。

